## 官民連携新技術研究開発事業 新技術概要書

		;	本概要書作	作成年月	平成23年2月28日	
1.新技術名	農業用パイプラインの効率的な機能診断調査技術の開発					
2. 開発会社	積水化学工業株式会社・東亜グラウト工業株式会社・ノザワ電子工業株式会社					
	会社名  積水化学工業株式会社					
	住所	住所 〒105-8450 東京都港区虎/			門 2-3-17	
3. 資料請求先	担当課	環境・ライフラインカンパニー 管路更生事業部		担当者	後藤 康夫	
	電話	03-5521-0553		FAX	03-5521-0558	
	ホームページ http://www.eslontimes.com/					
	大分類		小分類			
	06.管水路(パイプライン)工					
4.工種区分	23.施設維持管理					
	25.機能診断					
5.新技術の概要	6、代表箇所の診断調査・評価だけでは、水理ユニット内の変状が局所的か連続的であるのか、また変状の範囲や進行性等が把握できず、変状要因の推定や的確な評価にあたっては、連続的な施設状況を定量的に把握することが重要である。本調査診断技術は、調査の作業効率や作業環境の安全性に劣る 1500mm未満のパイプラインを対象に、ひび割れ、塗装劣化、継手部の状況など管内面側の変状やたわみ量といったパイプライン特有の変状情報を効率的かつ合理的に計測を行うものである。  【画像展開システム】・管内を直視走行だけで、展開画像が取得可能であり、調査時間を大幅に短縮する・変状箇の判断や寸法測定等が現場調査後の机上作業にて可能なため、見落としやオペレータ熟練度等による調査結果の相違を防止する・映像信号の伝送技術の開発により、自走ロボットによる長距離計測が可能  【内径測定システム】・機械式内径計測手法であるため、滞留水による計測への影響がない・たわみ量を任意の間隔で連続データとして取得できるため、変状の進行性や外部環境の変化等による局所的な異常箇所が把握でき、破損等を未然に予測し対処が可能  展開画像と直視画像  本調査診断技術は、調査の作業効率や作業環境の安全性に劣る、以下のパイプライン					
6.適用範囲(留意点)	施設を対象とする。 【対象管種】 すべての管種   【対象口径】 800~1500mm					

7. 従来技術との比較		との比較	新技術	比較する従来技術 (当初の工法·標準案)	比較の根拠			
	概要図  T法名  経済性(直接工事費)  工程  品質  安全性  施工性  周辺環境への影響				比較する従来技術として管内 潜行調査を記載したが、新技術 同等品質のデータを取得することは現実的には難しい ・管内全体画像取得 ・1cmピッチでの内径測定			
			画像展開システム 内径測定システム	管内潜行調査 (スケッチ・直接計測)				
			1スパン:300mの概算費用 調査工:339千円 /300m データ整理:102千円 /300m	1スパン: 300mの概算費用 調査工: 1,140千円/300m (2箇所/mのスケッチ・計測) データ整理: 441千円/300m (6枚/mの写真)	・洗浄・浚渫費用は除く ・新技術の設置撤去工は開口 部条件により省力・短縮が可能 ・潜行調査は、内面スケッチ及び2 箇所/mの内径計測調査とする			
			3日 (1スパン:300m)	、 12日 (1スパン:300m/1班)	断面、変状程度により潜行調査 費用はさらに増加			
			計測単位:連続データ データ形式:デジタル 変状判定:チェック可能 経年比較も容易 に左右		取得データ及び評価指標への 有効性			
			ロボット調査により安全性 高い	管内作業による転倒、酸 素欠乏、粉塵の危険性あ	管内潜行の有無による安全性 比較			
			管内断水調査	管内断水調査	変状程度により潜行調査時間 は増加			
			外部環境への影響なし外部環境への影響なし					
8	. 特許		·「管内壁面画像展開システム」 特開2008-90782 ·「管内径測定装置」 特許4491636					
9	. 実用新案		-					
1	0.実績	農水省	·(独)水資源機構 愛知用水総合管理所 管内 計測評価					
	その他							
1	1 . 備考							